

ウイルス 対策ソフト 完全ガイド

梅垣まさひろ

おそらく2199年、映画「マトリックス」の世界でコンピューター&マシンガンを武器に戦うネオという男がいる。視点を180度変えてみると、彼の存在はコンピュータウイルスそのものである。真実と人類のためにエージェントと戦う「正義」のウイルスなのだ。しかし、映画館を一步出れば、ここは1999年だ。マトリックスは存在しないらしい。むしろ悪意を持ったコンピュータウイルスにどう立ち向かうか、そこが問われている世界である。9月15日にはマイクロソフト社のアドレスを騙り、2000年問題対策プログラムY2Kcount.exeを添付した電子メールが多数のユーザーに送りつけられた。実際にはY2K問題を騙ったトロイの木馬であることが解明されている。インターネットの普及によって少なからず増加しているウイルスは、世紀末の今年から来年にかけてさらに猛威をふるうと考えられている。どちらの側が勝利をおさめるのか、カギを握るのはエージェントたるウイルス対策ソフトの戦いぶりなのだ。

【参考】  japan.whatisthematrix.com  www.trendmicro.co.jp/virusnews/troj_y2kcount.htm

これさえ知れば怖くない!

万全の対策でウイルスを防ごう

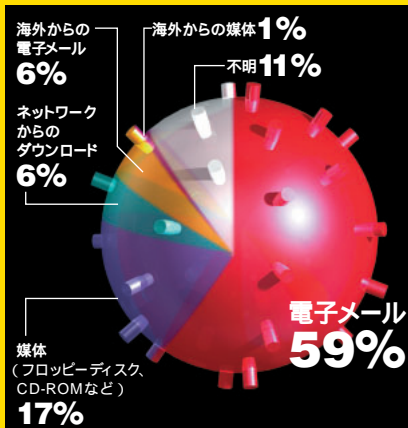
IPA()によると、今年のウイルス被害の届け出は8月までの合計ですでに昨年を上回る勢いだという。

しかし、ウイルスの特徴や動向を知れば防ぐことは決して難しいのだ。

情報処理振興事業協会  www.ipa.go.jp

ウイルス感染ルートを把握する

主な感染源はメールだ!



IPAセキュリティセンターの「コンピュータウイルス被害の届け出状況について(1999年9月7日)」の1999年1月～8月の件数を元にした。

生体を攻撃するウイルスでも、その対策には感染ルートの解明がもっとも重要であると言われる。たとえば、劇症肝炎を引き起こすことで知られるB型肝炎では血液が感染源となることから、輸血用血液の検査の精度を高めるなどの対策が進められている。コンピュータウイルスの実体はプログラムだが、生体の場合と同様に感染ルートが存在する。コンピュータウイルスは誰かがプログラムを組み立てたものであり、その誰かが想定して作りこんだ感

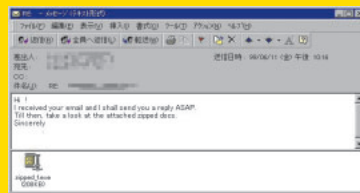
染ルートが存在するからだ。生体のウイルスに比べ、人が作ったコンピュータウイルスは感染力が弱いので、想定された感染ルートさえ絶てば、簡単

に死滅してしまうのだ。そこで、コンピュータウイルスの感染ルートをまず調べてみよう。

意外なことに、ウェブサイトからダウンロードしたプログラムで感染するといったケースより、電子メールによるものが圧倒的に多いことがわかるだろう。友人からの電子メールを疑う人が少ないこと、マイクロソフトなどの文書に感染するマクロウイルスが急増していることが、その要因だ。また同様のことがフロッピーディスクなどのメディアによる感

染の場合にも言える。ウイルスは、身近なところから感染するものなのだ。

電子メールで感染を広げる「EXP LOREZIP」ウイルスプログラムを添付して自動的に返信する。



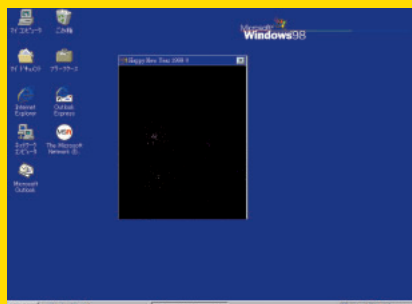
最新ウイルスの動向を知る

マクロウイルスに要注意!

では、現在どのようなウイルスが流行しているのだろうか。IPAセキュリティセンターによる9月の調査では、届け出のあった332件のうち199件(約6割)がマイクロソフトワードやエクセルの文書ファイルに感染するマクロウイルスだった。ExcelMacro/Laroux

(121件)はマクロウイルスの中でもっとも届け出が多く、エクセルファイルに感染するのだが、発病はしないため感染に気づきにくい。またマクロウイルス以外では、Happy99と呼ばれるウイルスが93件と多かった。このウイルスはウィンドウズのネットワーク機能に

感染し、ユーザーが電子メールを出すとその同じ相手にウイルスを添付した電子メールを勝手に送信する。PrettyParkも同様の感染ルートを持つ。このところ、電子メールを出すことで感染経路を確保するウイルスが増えていることがこの調査で見とれる。



Happy99の発病画面。

●1999年9月のウイルス届け出トップ5

ウイルス名	届け出数	形態	症状
Laroux	121	エクセルマクロ	感染したエクセルファイルを開くと新しいファイルを作成しlarouxという名称でウイルスのマクロを登録する。発病はしない。
Ska (Happy99)	93	ウィンドウズ95/98	「Happy New Year 1999」というタイトルの火花の画像が表示される。メールを送ると、その相手に自分自身を添付したメールを勝手に送信する。
Tristate	19	エクセル、ワード、パワーポイントマクロ	感染すると、マクロウイルス自動検出機能をオフにする。
Class	18	ワード97マクロ	感染したファイルを31日に開くと「This is Class VicodinES /CB /TNN」と表示する。
PrettyPark	18	ウィンドウズ95/98/NT4.0	IDとパスワードの情報が盗まれる。30分ごとにアドレス帳のメールアドレスに自分自身を添付したメールを勝手に送信する。

*IPAセキュリティセンター調べ

感染する前に絶つ、それが基本だ!

ウイルス対策ソフトの全機能

ウイルス対策ソフトは、感染を取り除くことはもちろんだが、それ以前に感染しない体 = PC を作ることを重視している。

したがって、健康体の間に、きちんとワクチンを投与しておくことをおすすめしたい。

最新ソフトはインターネット機能を強化

現在主流のコンピュータウイルスは、PCの持ち主の意思とは関係なく、一度感染すると勝手に電子メールを送信して自分自身をばらまくウイルスと、マクロ型ウイルスだ。マクロ型ウイルスはワードやエクセルなどの文書に感染する。メール送信者が感染に気づかずにウイルスに侵された文書を電子メールに添付し

て送信してしまうためにウイルスが広がってしまう。インターネット、特に電子メールがウイルス感染のもっとも深刻な原因であるということなのだ。そこで、最新のウイルス対策ソフトではインターネット、とりわけ電子メールの受信に対して水際作戦とも言える方法をとっている。電子メールの受信時にリア

ルタイムにウイルスを検知して除去する機能がそれだ。また、WWWブラウザでのファイルダウンロードやJAVA、ActiveXなどをリアルタイムに検出する機構を備える。安全なインターネットアクセスを支える影武者としての機能が充実している。本来は活躍の場がないほうがいいのだが……。

ハードディスクのチェック

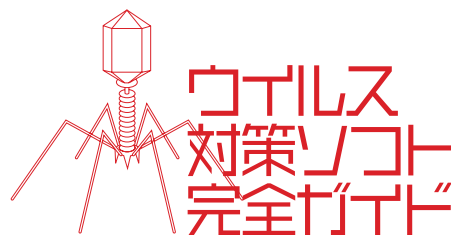
ウイルス対策ソフトの第一の仕事は、ディスクをくまなく精査して感染ファイルを見つけ出すことである。特に重要なのが、怪しいものを見つけ出す能力だ。あるウイルスが流行すると、そのウイルスの変種や亜種が多数発生する。大多数の新ウイルスはこのようなパターンの決まったものであり、亜種を正しく検出できれば、新ウイルスにも十分に対応できる。

JAVAやActiveXもブロック

JAVA アプレットやActiveXの動きを監視して不正な処理を防ぐ機能も重要だ。特にActiveXは、その強力さゆえにシステムに対する攻撃も可能である。あるウェブサイトアクセスしたら自分のハードディスクの中身がきれいにならなくなったといったトラブルもありえない話ではない。WWWブラウザ自身のセキュリティ機能に加えて、ウイルス対策ソフトが監視もしてくれるわけだ。

常駐リアルタイム検出

ウイルス対策プログラムに必須なもう1つの機能は、ファイルを開いたり、WWWブラウザでウェブサイトアクセスしたりしているときにリアルタイムでウイルスを監視する機能である。パソコン上でファイル操作をしているほんの一瞬の隙に、ウイルスをチェックしてくれるのだ。遅いマシンではワンクッション待たされる感じは否めないが、背に腹は代えられない。





ファイルのダウンロードを監視

ウェブサイトやFTPでダウンロードした圧縮ファイルはどうだろうか。圧縮されたファイルでも、その中身を展開して調べる機能があれば安心だ。ダウンロードしたファイルをリアルタイムに検査してくれるので、ダウンロード後も特別なチェックは必要ない。もちろん、リアルタイムチェックがそのファイルを開いたり実行したりする際にも二重に検査してくれる。



予約タイマー

タイマー機能を使うと、毎日決まった時間にハードディスクの検査や、文書ファイルのチェックができる。二重三重の防御体制を敷くことで、ウイルスの感染を防げるし、たとえ感染したとしても被害が広がる前に除去できる。



受信メールのリアルタイム検査

メールソフトが電子メールをサーバーから取る瞬間に、添付されたウイルスを排除してしまう機能である。もはや感染ファイルを手にする暇もないほどの早わざだ。これによって、添付ファイルを開いてしまったり実行してしまったりという「うっかりミス」も防げる。ただ、対応するメールソフトがまだ少数で、しかも設定がやや面倒ではある。しかし、防御体制としてこれに勝るものはない。



ウイルスデータベースの自動更新

世界中で24時間休むことなくウイルスが生まれ出され、そして各メーカーの研究所でそのウイルスを解析したデータベースが作られている。とりわけ新種のウイルスと戦うには、データベースを最新の状態に保つことが重要だ。そこで、データベースやウイルス対策ソフトのアップデートをチェックし、自動更新する機能が用意されている。



ウイルス検疫機能

疑わしいファイルを隔離する機能がこれだ。怪しいファイルは特別なフォルダーに移動して開けなくしたうえで、各社のウイルス解析センターに安全に送られる。センターでは、届いた疑わしいファイルをより高度な検査によって判定するわけだ。ユーザーはこの判定を待って、駆除したり安全と判断して元に戻したりできる。

●あなたのPCを守る最新ソフト

	メーカー	OS	価格	必要動作条件
ウイルスバスター2000 P.268  体験版	トレンドマイクロ(株)	Win	8,500円 (税別)	Win95/98/98SE/NTWS4.0 SP4以上、486DX2/66MHz以上、ハードディスクに24MB以上の空き容量が必要 (Win2000対応予定)
		Mac	9,800円 (税別)	PowerPC、MacOS8以上、ハードディスクに10MB以上の空き容量が必要
ノートン・アンチウイルス2000 P.270	(株)シマンテック	Win	6,500円 (税別)	DOS、Win95/98/98SE/NTWS4.0 SP5、ハードディスクに70MB以上の空き容量が必要
		Mac	9,800円 (税別)	PowerPC、MacOS8以上、ハードディスクに10MB以上の空き容量が必要
鉄壁VirusScan P.272	(株)ソース *11/1より ソースネクスト(株)	Win Ver.4.0.2	6,500円 (税別)	Win95/98、486SX以上、ハードディスクに15MB以上の空き容量が必要
		Mac Ver.5.9.1 for Mac	9,800円 (税別)	68LC040、PowerMac以上、OS7.6以上、ハードディスクに8MB以上の空き容量が必要

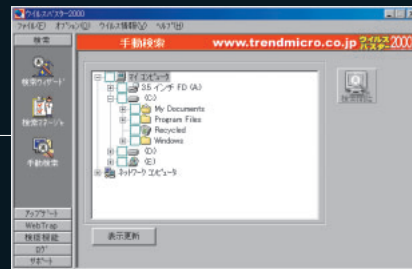
最強最新ソフトその①



ウイルスバスター 2000

8,500円
トレンドマイクロ株

体験版
Win Vb2000
+CD-ROM



Jump www.trendmicro.co.jp

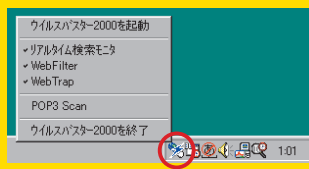
9月17日に発売されたウイルスバスター2000は、電子メールのリアルタイム検査を筆頭に、怪しいウェブサイトへのアクセスを禁止するWebFilter機能、新種ウイルスの疑いのあるファイルを隔離する検疫機能など、初心者でも安心して使える機能をきっちりサポートする。検疫機能は怪しいファイルをウイルス対策の専門組織であるeDoctorに送信し、高度な検査を実施して48時間以内に結果を知らせてくれるというものだ。また、業界初の「ウイルス対策保険サービス」が設けられ、規定の条件で新種ウイルスに感染した場合には、購入金額を返金するというサービスもある。安全なインターネットアクセスを望むなら、導入して損はない。

ハードディスクを チェックしよう



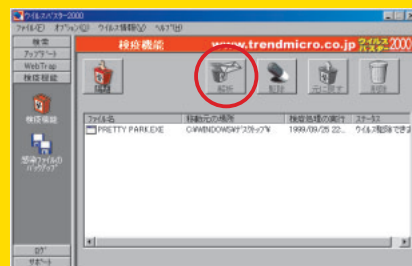
①メイン画面の検索ウィザードで、調べたいディスクやファイルなどの検索対象を指定し、「次へ」を押す。

リアルタイム 検索モナで 常に監視しよう



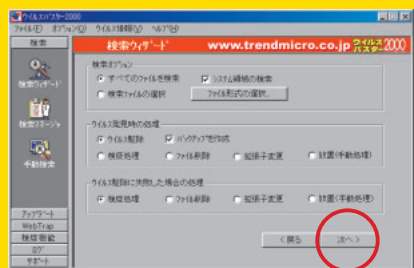
①タスクトレイのこのアイコンを右クリックすると、リアルタイム検索モナの動作状況が確認できる。初期状態で最適に設定されているので、特に設定を変更する必要はない。

検疫機能で 怪しいファイルを 解析しよう

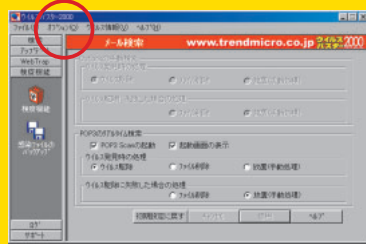


①検索中に見つけたファイルのうち、すぐに判定できなかったものは検疫機能によって安全に隔離される。

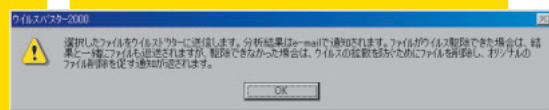
受信メールも リアルタイムで チェックしよう



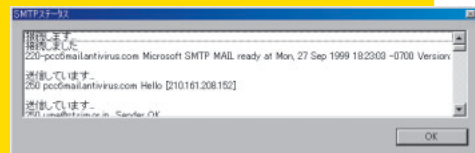
②検索オプションは初期設定のままでOK。ウイルス発見時の処理方法を指定し、「次へ」を押す。



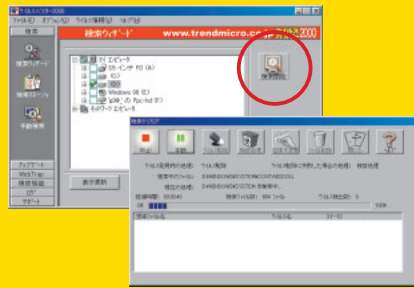
①電子メールの検索はメイン画面からオプションメール検索で設定できる。「POP3 Scanの起動」にチェックを付けると、サーバーからメールを受け取る際にリアルタイムでチェックする。



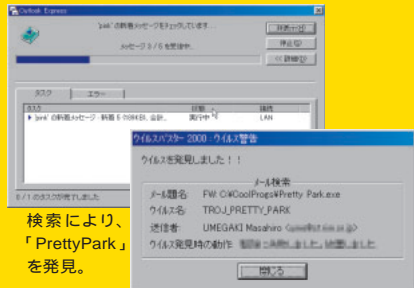
③で解析ボタンを押すと、このようなメッセージが表示される。データが送信される旨が表示されるので、「OK」を押す。



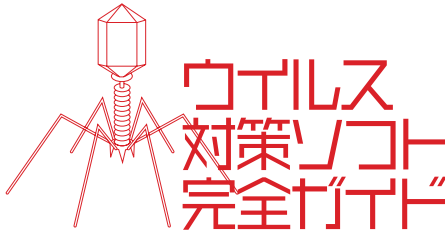
④電子メールで怪しいファイルがeDoctor宛てに送信され、その後、返事が戻ってくる。今回のサンプルに使用したトロイの木馬に関しては、既知のものなのでただ削除するだけでよく、本来解析は不要だ。



③検索対象のドライブやフォルダーにチェックを付け、検索開始ボタンを押すとウイルスの検索作業がスタートする。

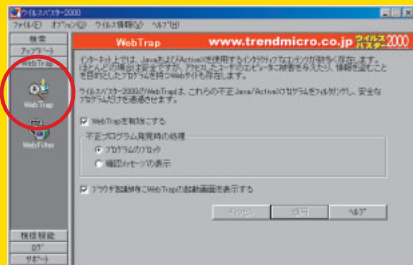


②アウトルックエクスプレスで電子メールをサーバーから取得する（現在はアウトルックエクスプレス、EudoraPro、ポストペット2001にのみ自動対応）。

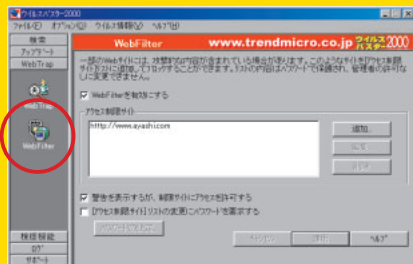


ウイルス 対策ソフト 完全ガイド

ウェブアクセス時モリアルタイムで防御しよう

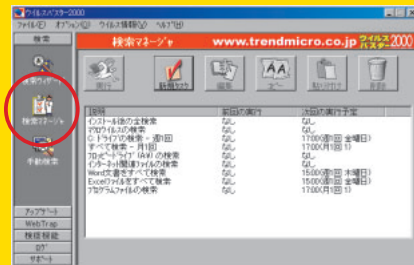


①画面左の「WebTrap」を押してアイコンをクリックする。「WebTrapを有効にする」にチェックを付けるとJAVAやActiveXなどの不正なプログラムをリアルタイムにチェックできる。

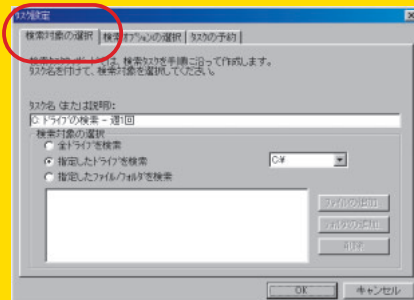


②WebFilterアイコンをクリックして「WebFilterを有効にする」にチェックを付けると、「アクセス制限サイト」に登録したURLへのアクセスを禁止できる。

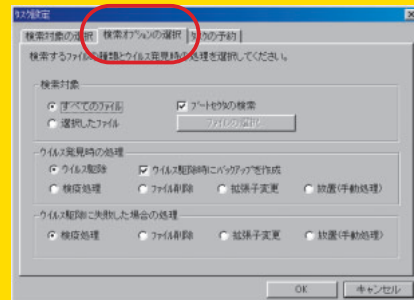
検索マネージャで定期的にウイルスを駆除しよう



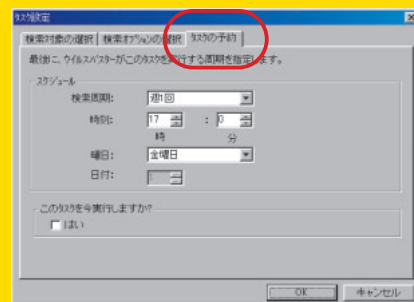
①画面左の「検索マネージャ」を押す。ここでは定期的に行いたい検索タスクを指定できる。たとえば「C:ドライブの検索-週1回」の設定を変えるには、変更したい箇所を選択して編集ボタンを押す。



②「検索対象の選択」タブでドライブなどの変更ができる。



③「検索オプションの選択」タブでは、検索対象のファイルや、ウイルス発見時の処理を指定できる。初期値のままでは問題はない。

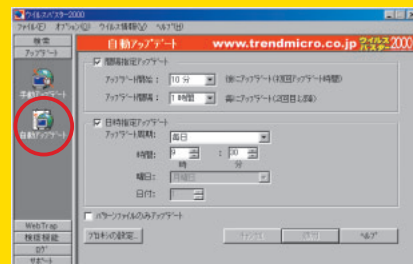


④「タスクの予約」タブでスケジュールを設定する。たとえば週に1回、夕方17時などのように設定する。

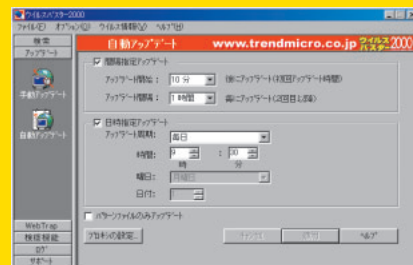
パターンファイルを自動でダウンロードしよう



①パターンファイル（ウイルスデータベース）の更新は、自動と手動がある。最初の1回は手動で更新しておく。手動アップデートアイコンをクリックし、画面に従う。



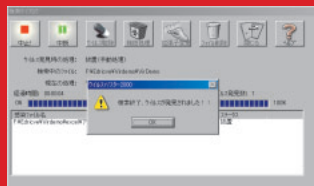
②自動アップデートアイコンをクリックすると、ダウンロードの間隔や日時が指定できる。ダイヤルアップユーザーはテレホーダイタイムなどをうまく利用したいだろう。



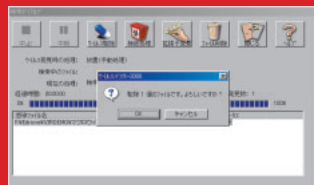
③指定された時間でダウンロードが開始される。パターンファイルだけでなく、時にはプログラムのアップデートも行われる。

ウイルスを発見したら

ウイルスバスター2000では、駆除のほかに拡張子だけを変更して使えなくしたり、ファイルごと削除したりする機能もある。いずれにしても、ファイルは保存しておかないほうがいい。興味本位にウイルスを扱おうと、自分ばかりではなく友人にも感染させる危険があるからだ。また、発見後は念入りなチェックが求められる。



各種の設定を初期状態で利用すると、ウイルスを発見したときにこのようなポップアップ画面が表示される。



全体の検索終了後「ウイルス駆除」を行う。駆除できない場合は「検疫処理」をする。

アップグレード情報

【対象】

ウィンドウズ95/98/NT4.0対応ウイルスバスターを使用し、現在1年間の無償サポート期間、または有償サポートを受けているユーザーは無償でアップデートできる。

【方法】

ウイルスバスター98無償アップグレード版の場合はその用紙に、それ以外は9月送付のHello Trend誌に同封している「ウイルスバスター2000アップグレードについて」の用紙に書かれているIDとパスワードでウェブサイトからアップグレード版を入手できる。

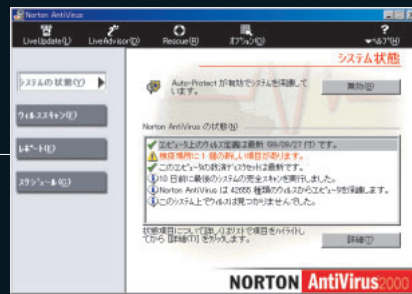
www.trendmicro.co.jp/products/vbzk/upgradez.htm



ノートン・アンチウイルス 2000

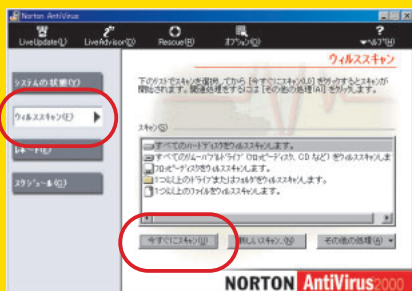
6,500円 (Mac(ノートン・アンチウイルスver.6.0)9,800円)
 ㈱シマンテック

9月30日に発売されたノートン・アンチウイルス2000は、電子メールを受信中にリアルタイムに検査してウイルスを除去する「Email Scanning」機能や、多重圧縮されたファイルを完全に検査する機能、JAVA アプレットやActiveXといった不正なプログラムからの保護など、インターネットのセキュリティを徹底的に強化したウイルス対策ソフトだ。電子メールの検査はプロキシー方式なので、POP 対応メールソフトならすべて利用できる。また、新種ウイルスへの対応も、ウイルスを隔離する検疫機能とシマンテック・アンチウイルス・リサーチ・センター(SARC)による解析で万全を期する体制がとられており、迅速な対応が魅力だ。



Jump www.symantec.com/region/jp/

ハードディスクを チェックしよう

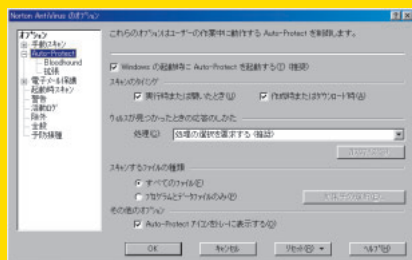


① メイン画面で「ウイルススキャン」をクリックして、チェックしたいメディアを選択する。

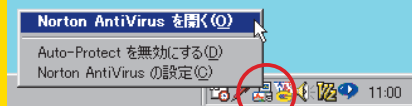


②③ で「今すぐにスキャン」を押すとウイルスの検索を開始する。この画面に先立って、メモリの検索が行われる。

オート プロテクションで 常に監視しよう



① メイン画面の「オプション」アイコンをクリックし、オプション設定画面を出す。設定は初期値のままでもOKだ。

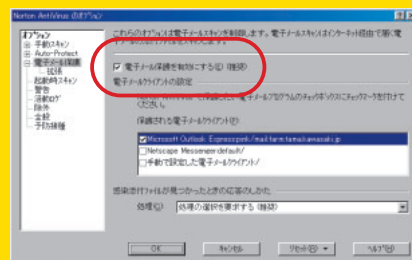


② オートプロテクションが有効になっていれば、タスクトレイのアイコンを右クリックすると、このメニューが出る。

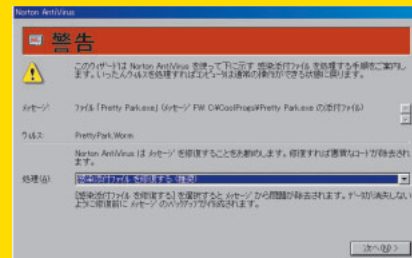


③ タスクトレイのアイコンで「Norton AntiVirusを開く」を選ぶと、いつでもこのメイン画面が表示できる。

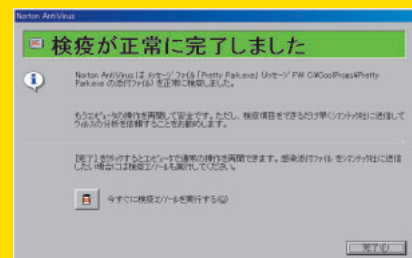
受信メールも リアルタイムで チェックしよう



① オプション画面の「電子メール保護」画面。ここで、保護される電子メールクライアントに通常利用しているメールソフトを設定する。アウトLOOKエクスプレスやネットスケープメール以外のソフトも、手動で設定すれば使えるようになる。



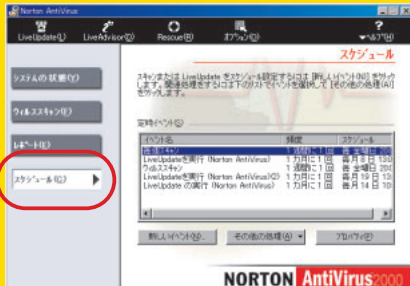
② アウトLOOKエクスプレスで受信中にトロイの木馬「PrettyPark」を発見。警告画面に従い、処理を選択して「次へ」を押す。



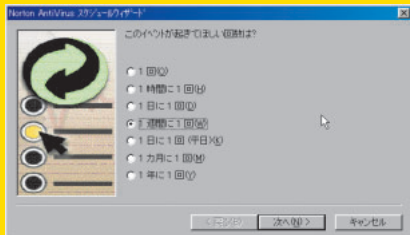
③ 検疫処理を行い、完了した。必要に応じて、検疫コンソールで削除するかSARCへファイルを送信して解析を依頼する。



スケジュール機能で定期的に検査しよう



①「スケジュール」をクリックして、定期的にウイルス検索を行うイベントを設定する。定期的なカレンダー処理がここでできる。

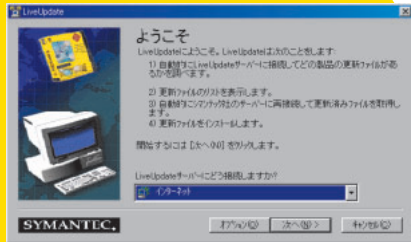


②①で設定を変更するイベントを選んで「プロパティ」を押すと、ウィザードが表示される。画面に従って値を変更すると簡単に設定できる。



③時刻や動作間隔もプルダウンメニューで自由に設定できる。

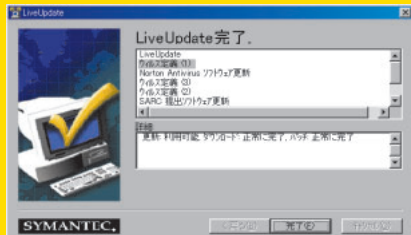
LiveUpdateで最新ウイルスにも迅速に対応しよう



①LiveUpdate アイコンを押すとウィザードが表示される。この機能でウイルスデータベースとプログラムの更新ができる。



②ウィザードに従って設定すると、シマンテックのホームページにアクセスする。新しいウイルス定義ファイルが見つかったら「更新ファイル選択」画面が表示されるので、ダウンロードするファイルを指定して「次へ」を押す。



③ダウンロードが完了した。詳細情報もウィンドウに表示される。

アップグレード情報

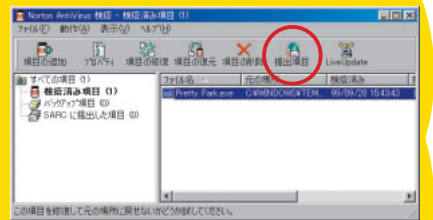
【対象】

ノートン・アンチウイルスウィンドウズ版 Ver2.0以上の登録ユーザーを対象にアップグレード価格3,900円で販売する。

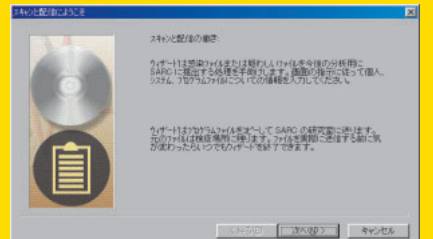
【方法】

CD-ROMまたはダイレクトメールを提示して店頭でアップグレード版を購入するか、ダイレクトメールを参照のうえ、直接申し込む。

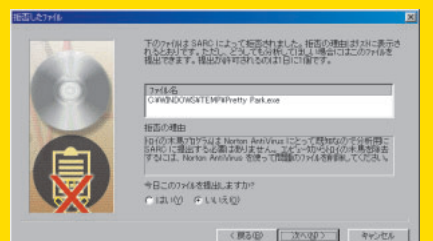
検疫機能で未知のウイルスに対処しよう



①サーバーからメールを取る際に捕らえたPrettyPark、ウイルスは発見された時点で隔離される。



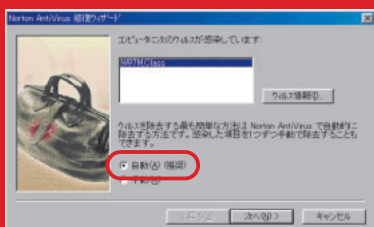
②①で「提出項目」アイコンをクリックしてSARCへ提出する。「スキャンと配信の働き」画面が表示されるので「次へ」を押す。



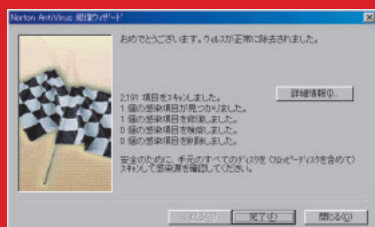
③既知のウイルスの場合は、提出せずに削除するようにとのアドバイスが表示される。未知の場合は提出する。

ウイルスを発見したら

「自動」で除去するのが原則だ。だが、自動で除去できない場合や、重要なファイルなのでただ削除するわけにはいかない場合は検疫機能を使って隔離するといい。ただし、ウイルスの処理を誤ると自分自身が発生源となって広めてしまうこともある。細心の注意が必要だ。



スキャン中にウイルスが発見されると、この表示が出るので、通常は「自動」を選ぶ。



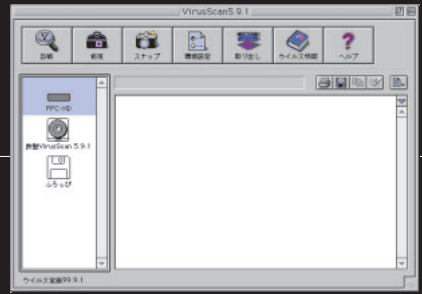
ウイルスを自動的に除去できて完了画面が出る。除去できないものは検疫処理される。



鉄壁Virus Scan

Windows (Ver.4.0.2) 6,500円 Mac (Ver.5.9.1) 9,800円
 株ソース *11/1よりソースネクスト様

鉄壁はDr Solomon's社のVirexとネットワークアソシエイツのVirusScanの強力な検出駆除技術を融合、強化したウイルス対策ソフトだ。今回紹介するマッキントッシュ版は、マックらしいシンプルなユーザーインターフェイスが使いやすい。アイコンにドロップするだけで検査が始まる「DropScan」やコンテキストメニューからの検査も使い勝手がいい。機能面では、電子メールのリアルタイム検査機構がマック版にはないが、圧縮ファイルの検査や未知のウイルスを検出する「ヒューリスティック」機能を備えるなど、十分な性能を持つ。なお、専門機関による既知ウイルス検知テストでは100パーセントの検知率が確認されている実力派だ。



Jump www.source.co.jp

ハードディスクを チェックしよう



① インストールしたフォルダー名「VirusScan」のアイコンをクリックして起動する。

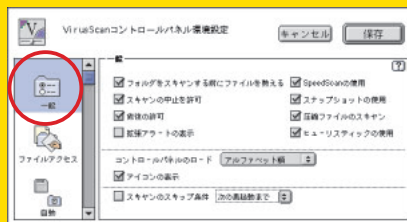


② 画面左側のメディアのアイコンをクリックして選択し、診断ボタンを押すとスキャンが開始される。

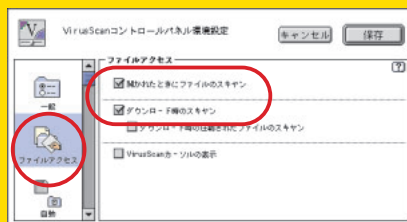
コントロール パネルでウイルスを 常に監視しよう



① コントロールパネルの「VirusScanコントロールパネル」を開く。

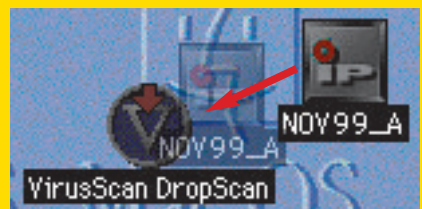


② ①で「環境設定」を押して、左側のアイコンから「一般」を選ぶ。圧縮ファイルのスキャンやヒューリスティック（怪しいファイルを検知）の使用のチェックを確認する。

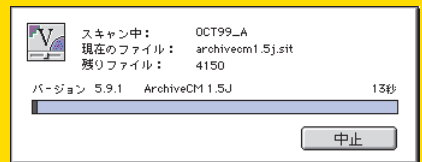


③ 環境設定画面の「ファイルアクセス」では、「開かれたときにファイルのスキャン」と「ダウンロード時のスキャン」にチェックを付ける。「ダウンロード時の圧縮されたファイルのスキャン」も高速なマシンならばチェックを付けたとさらに安心だ。

ファイルやフォルダーを ドラッグ&ドロップで チェックしよう



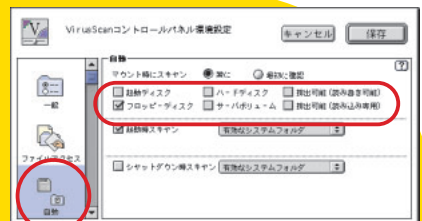
① CD-ROM、ドライブ、フォルダー、ファイルなどを、このDropScanアイコンに重ねるだけでワンタッチで検査できる。



② ファイルをDropScanアイコンに重ねると、このような画面で検索が始まる。

最新版情報

鉄壁の最新版「鉄壁2001 VirusScan Ver.4.0.3」(Windows版6,500円)が10月22日に発売される。マイクロソフトオフィス2000への対応を中心に、電子メールのリアルタイムな検索機能「Eメールスキャン」などの機能を強化した新バージョンだ。旧4.0.2のユーザーには、ウェブサイトからのダウンロード(無償)とCD-ROMの送付(有償)によるアップデートパスが用意されている。

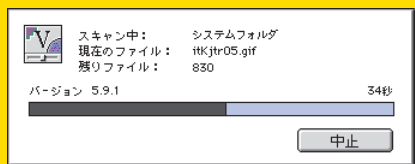


④ 環境設定画面の「自動」では、「フロッピーディスク」にチェックを付ける。MOなどを使っているのなら「排出可能」の2か所にもチェックを付ける。

コンテキストメニューで簡単にスキャンしよう

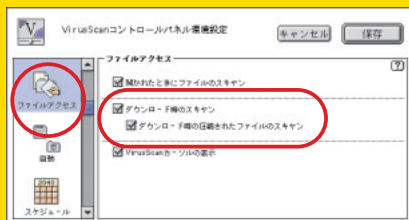


① Controlキーを押しながらファイルやフォルダのアイコンをクリックすると、コンテキストメニューが表示される。その中の「ウイルススキャン」を使えば簡単にスキャンできる。

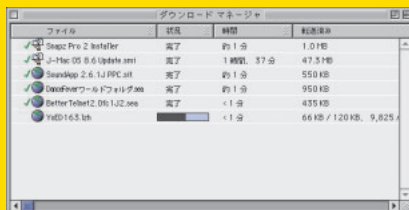


② ①のようにコンテキストメニューを使ってシステムフォルダをスキャンした。

ファイルのダウンロード時にリアルタイムで監視しよう

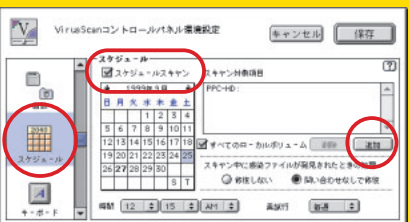


① VirusScanコントロールパネル環境設定の「ファイルアクセス」で「ダウンロード時のスキャン」にチェックが付いているかどうかを確認する。高速なマシンであれば「ダウンロード等の圧縮されたファイルのスキャン」にもチェックを付けておこう。



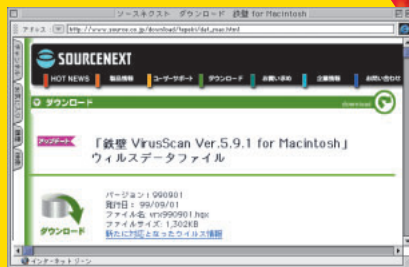
② リアルタイムで監視をしても、画面のように見た目にはまるでわからないが、ダウンロード時も静かに検出が行われている。

スケジュール機能で定期的に検査しよう

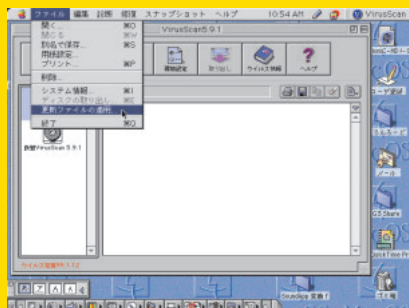


① VirusScanコントロールパネル環境設定で「スケジュール」を選ぶ。「追加」ボタンでスキャン対象を指定したら、時間と再試行（毎日、毎週、毎月など）を設定する。「スケジュールスキャン」のチェックも確認する。

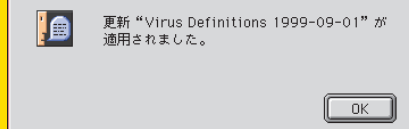
最新ウイルスデータを取得して登録しよう



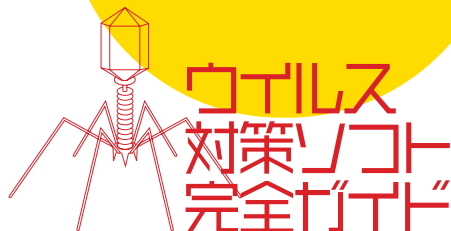
① まず、新しいウイルスデータファイルをウェブサイト「Jump」からダウンロードする。この例では、ファイル名 vrx990901.hqx をダウンロードし、解凍には Stuffit Expander（本誌 CD-ROM に収録）が必要だ。
Jump www.source.co.jp/download/



② VirusScanを実行し、メニューの「ファイル」「更新ファイルの適用」で解凍したデータファイルを選ぶ。



③ ウィルスデータファイルが更新されて、新しいウィルスデータベースが適用された。



ウイルスを発見したら

鉄壁では、環境設定の「修復」で「問い合わせなしに修復または削除」を選んでいない場合、ユーザーにウイルス発見時の処理を任せる形式だ。もちろん、迷わずに削除したほうが身のためだ。なお、削除が終わっても安心せず、もう一度ハードディスク、手持ちのフロッピーディスクやMO、スーパーディスクなども検索して安全を確かめよう。



スキャンした結果ウイルスが検出されると、赤字で発見が報告される。



感染しているのはスーパーディスクなので、そのまま取り出してもいいが、普通は「削除」を押す。

ウイルス対策ソフトは鮮度が命

本記事執筆中にあるメーリングリストでトロイの木馬「PrettyPark」が流れ、捕らえることに成功した。これは電子メールを出しまくる悪質なもので、IRCなどにも自分自身を投稿するらしい。多くのユーザーを抱えるメーリングリストにいったんウイルスなどが流れてしまうと、誤って実行してしまう人が必ず出てきてしまう。偶然とはいえ、今ここにある危機を体験することとなった。くれぐれも、ウイルス対策ソフトはサポート付きの最新版を使ってほしい。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp